

『えひめ夢特区』第1号が誕生！！

“牛鬼の里うわじま”どぶろく特区

愛媛県では、県民の皆さんの地域での取組みを県独自の規制緩和や支援措置により、地域限定で支援する「えひめ夢特区」の第1回の認定式が2月16日に県庁で行われました。

この制度は、県民の皆さんの提案に基づき、市町が立案する地域の個性を活かした地域活性化の計画を認定し、その計画が円滑に推進されるよう、県独自の規制緩和などの支援を地域限定で行うものです。

今回は、その第1号として「岩松町並み保存会」の提案に基づき、宇和島市が立案した“牛鬼の里うわじま”どぶろく特区」を認定することとし、加戸知事から石橋宇和島市長に認定書が手渡されました。

今回認定された夢特区は、地元の米を使った「どぶろく」の製造や農家レストランの開設、自然や歴史・文化を活かしたツーリズムを推進することにより、特色ある町づくりを行う計画で、加戸知事は「夢特区のトップバッターとして頑張ってもらいたい。」と激励し、石橋市長は「南予の景気回復は、まず地元が頑張らなくてはならない。」と意気込みを語りました。

また、取組みを提案した宇和島市津島町の「岩松町並み保存会」の兵頭代表は「どぶろくをツールに、市内外の交流を図りたい。」と抱負を語っていました。

県では、この認定に基づき、宇和島地方局の担当者らによるプロジェクトチームを速やかに設置して、計画の実現に向けた集中的な支援を行う予定です。



“牛鬼の里うわじま”どぶろく特区計画

【作成主体名】 宇和島市

人口：89,444人

世帯数：34,222世帯

面積：469.47km²



【区域の範囲】 宇和島市全域

【県からの支援内容】

どぶろくを活用した地域活性化プロジェクトチームの設置

どぶろくを活用した地域活性化を支援するために、地方局の担当者からなる「夢提案実現プロジェクトチーム」を編成し、市町と一体となって具体のプロジェクトの実現を支援する。また、必要に応じて、本庁との連携を図りながら支援を行う。

【計画の概要】

宇和島市が推進している農山漁村と歴史文化を活かしたツーリズムのメニュー創出にあたり、豊富な自然と資源を最大限に活かして地元の生産物を使った宇和島地域特有の「濁酒」を造り、農家レストラン、製造工程見学体験などの事業展開による販路拡大を目指す。また併せて「濁酒」のブランド化を手始めに、地域ブランドの確立を図ることにより、地域と住民に活力をもたらし、特色あるまちづくりを進める。

《計画の目標》

(ア)地域ブランドの確立

宇和島市民なら誰もが知っている奇習“牛鬼”を一つのシンボルとして、まずは「“牛鬼の里うわじま”で作った厄を祓う濁酒」を皮切りに、観光・物産の両面から統一したブランド展開を行い、強い産業としての地域ブランド“牛鬼の里うわじま”を確立する。

(イ)多彩な自然環境を活かしたツーリズムの推進による交流人口の拡大

ツーリズムメニューの呼び物としての「農家レストラン」や「濁酒製造工程の公開」等を重点的に支援し、そこから様々なツーリズムメニューを展開し、都市との交流による交流人口の拡大に資する。

(ウ)体験観光における中長期滞在から移住へ

地域の個性であるブランドを確立し、多彩なツーリズムメニューを展開することにより顧客やリピーターを獲得し、地域の暮らしに触れ、体験してもらうことで、季節滞在者や中長期の滞在者を徐々に増やし、団塊の世代等を対象とした移住者の誘致に取り組む。



宇和島市津島町岩松の町並み



どぶろく用の米を栽培する棚田